

第 2 回白馬村社会福祉推進委員会  
(白馬村高齢者福祉計画策定委員会) 会議録 (要約)

召 集 年 月 日	平成 2 4 年 2 月 2 7 日（月）午後 1 時 3 0 分							
召 集 の 場 所	白馬村役場 3 0 2 会議室							
開閉会の日時 及 び 宣 言	開会	平成 24 年 2 月 27 日（月）午後 1 時 30 分			福祉 係長	吉田 久夫		
	閉会	平成 24 年 2 月 27 日（月）午後 3 時 15 分			委員長	松澤 衛		
出 席 者 数	委員数 14 名の内 出席者 10 名							
出 席 委 員	職 名	氏 名		出欠	職 名	氏 名		出欠
	副委員長	吉沢 治代		欠	委 員	塩島 昭次		欠
	委 員	栗田 裕二		欠	委 員	西沢 千賀子		出
	委 員	武田 進		出	委 員	丸山 悦子		出
	委 員	太田 修		出	委 員	太田 穂積		出
	委 員	西澤 範昭		出	委 員	松本 英子		出
	委 員	丸山 徹		出	委 員	中村 真琴		欠
	委員長	松澤 衛		出				
	委 員	杉山 憲治		出				
事 務 局	住民福祉課長		倉科 宜秀		住民福祉課 住民福祉係長		吉田 久夫	
	住民福祉課 保健介護係長		津滝 明子					
傍 聴 者	なし							

## 1. 開 会

〔事務局：吉田係長〕 開会を宣言した。なお、策定委員として委嘱した江原委員から、一身上の都合により、参加出来ないということで辞退届を提出されたことを報告した。

## 2. あいさつ

〔松澤委員長〕 第2回策定委員会への出席に対しお礼を述べ、協議の協力をお願いした。

## 3. 協議事項

### （1）計画素案について

〔松澤委員長〕 計画案について、事務局に説明を求めた。

〔事務局：吉田係長〕 本日配布した資料は、「素案」から出された意見を反映し「案」とし、修正箇所には下線を引いてあるので、これらの確認と「資料 1」で、網掛けの部分について委員の皆さまから意見を伺いたいことや、修正意見の内容についてももう少し伺いたいことを説明し、修正部分をページ毎に説明した。

〔松澤委員長〕 事務局の説明に対して質疑・意見を求めた。特に、委員の皆さん自分で修正案を出した場所を確認して欲しいと求めた。

〔松澤委員長〕 第3章「計画の基本理念・目標」の「1. 基本理念・目標」の「基本目標」については、複数の基本目標を提案していることから、この部分について意見を求めた。

私の意見であるが、これは現在制度があっても利用できない人がいる、また、地域における見守りが少なくなったことから基本目標を追加した。

〔事務局：倉科課長〕 「基本目標」に掲げる「施策」の具体的な施策を含めて判断すると、素案の基本目標から読み取れると思う。

〔太田（修）委員〕 基本目標を付け加えた方が分かりやすいのか。

〔松澤委員長〕 分かりやすいと言うよりも、言葉が足りないのかなと思う。

〔事務局：吉田係長〕 どちらかと言うと基本目標に含まれる内容と思う。基本理念をいじるのか、基本目標を増やすのかのどちらかと思う。

〔事務局：倉科課長〕 具体的な施策というよりもスローガンの的に判断していただければと思う。

〔西沢（千）委員〕 長い文章になるが、「住み慣れた地域で元気で暮らせるよう地域全体で支え合う体制づくり」のようにしてみればどうか。

〔杉山委員〕 基本理念と同じような文言が続くので「むらづくり」を「体制づくり」に修正した方が良いと思う。

〔松澤委員長〕 出された案を基本に事務局で検討していただきたい。

〔松澤委員長〕 「2. 計画の体系」に検証の手法を記載することは。

〔事務局：吉田係長〕 「高齢者福祉計画」は、3年ごとにローリングしているので検証は必ず行うこととなるので、改めて記載することはしない。

〔西沢（千）委員〕 第4章「1. 地域支援事業（2）包括的支援事業」は、包括支援センターの事業なので、文章表現を分かりやすく修正したものである。

〔松澤委員長〕 この中の、「権利擁護」については、白馬村ではお金がかかるということで進んでいない状況と思う。南へ行けば進んでいて件数は増えている。予算的なこともあると思うが「積極的に推進する。」と文言を入れることはできないか。

〔事務局：吉田係長〕 政策の部分なので、予算的なこともありご要望として受けます。

〔武田委員〕 これだけの事業は、全て包括支援センターで一括して行うのか。

〔事務局：倉科課長〕 白馬村、社会福祉協議会、包括支援センター、健学塾、しろまメディアへ委託するなどして行っている。

〔武田委員〕 実働部隊としてこれら事業がやりきれぬのか。私が危惧するのは、計画をつくっても計画倒れにならないか。実働部隊がしっかりしていないとできないと思う。それから、私が読んでも分からない。これをホームページに出しても、計画に関係する「おじいちゃん・おばあちゃん」が読んでも理解できない。

〔事務局：吉田係長〕 計画倒れという点については、これら事業の関係機関を補うものとして、「人的なもの」、「予算的なもの」が場合によって必要となる。現時点では、具体的な事業として記載しているもののだけであるが、制度等の拡大等となると予算が必要となる。

〔武田委員〕 4つの機関だけでは足りないと思う。地域の人たちの協力が必要となることも検討して欲しい。

〔事務局：吉田係長〕 文言では入れてあるが、区の加入率と同様に地域の協力は難しい問題である。各種事業の内容については、包括支援センターなどへ相談に来た時点で詳しく説明している。

〔武田委員〕 事業の説明は、お年寄りや家族が、役場に来なければサービスとして進んでいかないのか。

〔松澤委員長〕 包括支援センターは窓口だが、ここだけでなく地域には民生委員がいるので説明もしているものの、全ての人にと言うところまでではない。

〔武田委員〕 民生委員もプライバシーの問題があるので難しい。

〔事務局：津滝係長〕 相談に来ない方であっても、本年度から高齢者の実態把握業務の中で、実際に高齢者のお宅に訪問し、困ったことなどを確認しサービスの提供に向けた努力もしている。

〔松澤委員長〕 これまでで言い残したことなどあれば言っていただきたい。

特に追加意見なし。

〔事務局：吉田係長〕 「資料1 計画素案の修正箇所一覧」の、別途意見等を伺いたい部分について説明した。

〔松澤委員長〕 社会福祉協議会で行っている「ファミリーサポート事業」では、実際にサポートに行っていないような事案もある。また、利用者も自分の要望として言いたいことを言うが、サポート者の目途がつかないなどから、介護の部分として押されているかなと思う。

そこで、手の届かないサービスの部分については、第4章「1. 地域支援事業」として、この中でできないかという意見である。

また、第6章「2. 生きがいつくりの推進」として、高齢者の居場所づくりということを予算的に進めるなど雰囲気づくりを入れてもらいたい。

「買い物の足」関係では、福祉有償運送での買い物が良いのか、車両の貸出で良いのか、デマンドタクシーが良いのか、狭間にいる高齢者について考えなければならない。

〔事務局：吉田係長〕 それぞれの現行制度を突き合わせ、お互いの制度の改正で対応できる部分があるのか、制度の組合せでできるのか等を実務者レベルでの調整が必要と考えている。

〔事務局：倉科課長〕 デマンドタクシーでは大量の買い物により荷物の置き場が無く乗れないとか、シルバーカーのため乗れない等の話は聞いている。運転手によってもサービスが違うことも聞いている。また、ご意見の参加者が少ないという「まめった講座等」については、新規者を探すことが難しい状況である。

〔事務局：津滝係長〕 今回の介護保険制度の改正に伴い、第4章「1. 地域支援事業④生活支援サービス」では、多様な生活支援が行えるように内容を把握できたら対応したい。

〔松澤委員長〕 社会福祉協議会が受託されている「軽度生活援助事業」も昔は、玄関から道路までといった雪かきの対応をしてきた。補助金が無くなってからは対象者無しということで、あとは村の単独事業としてやる気があるのか無いのかと思う。

〔丸山（徹）委員〕 第2章「2. 介護サービスの利用状況」の介護サービスの利用状況の「グラフ」で、サービス計画数でなくサービス実数のほうが良い。なお、老人保健施設の利用率も中に入れないと文章表現と合わない。

〔事務局：吉田係長〕 対応します。

〔西沢（千）委員〕 「軽度生活援助事業」は、最近全然やっていなかったということであるが、やることのできるのか。

〔事務局：吉田係長〕 要綱はあるので、具体的に何のサービスができるのか検討させてほしい。これまでは、補助金の削減により制度利用させなかったこともある。ご意見があることは重々分かっているの  
で前向きに検討していきたいと思う。

〔西澤（範）委員〕 デマンドタクシー事業と福祉有償運送の利用条件は違うと思うが、その条件を明示しているが、どちらにも当てはまらない方のニーズがあるということなので、住民に明確に示してやればと思う。

〔事務局：倉科課長〕 デマンドタクシーは、50 歳以上の自分で乗り降りでき登録した方を村内に限定して運行、福祉有償運送は一定の介護度以上を通院等の限定で有償運送を行っている。

〔事務局：吉田係長〕 登録者に比べて利用者が少ない部分は、登録者にアンケートを実施しているが中々表面に出てこない。この方たちへ対応することによって交通確保の部分は若干改善されるかもしれない。

〔杉山委員〕 介護保険制度で対応できない部分、例えばヘルパーが自宅のベッドから玄関まで連れてくるとかはサービスの対象ではない。介護保険の認定を受けている方が買い物で一つ一つ見て買いたいといった介護保険との狭間にいる部分を白馬村としてサポートできるように考えてもらいたい。

〔松本委員〕 介護等にならないための方法が必要である。そのためには、対象者が簡単な運動で体を動かすようなことについて、人が集まらないかもしれないが大切である。身近で機会があればもっと参加するのではないかな。

〔太田委員〕 計画については、先にこんな事業をやっているという勉強をしたかった。内容を見ただけではよく分からない。前回と今回と国の制度がこのように改正されたとか、村の制度がこのように変えたとか分かるようにしてもらえば理解しやすい。

〔松澤委員長〕 実質、今日が意見交換の場となっており、次回は修正されパブリックコメントの後で開催すると思うので、その辺を事務局で説明して欲しい。

〔事務局：吉田係長〕 庁内会議として、2 月 29 日の課長会議に提案し、パブリックコメントを行い、その後、3 月下旬で策定委員会を開催して内容をまとめてから 3 月の課長会議と事務手続きを経て正式に「白馬村高齢者福祉計画」となる。

〔事務局：倉科課長〕 第 1 回会議補足説明資料として、「65 歳以上の死亡者及び 65 歳以上人口と要介護認定者数の関係」について、事前に送付した内容について説明した。

#### 4 その他

〔松澤委員長〕 その他について、事務局に説明を求めた。

特に無し。

#### 5 閉 会

〔松澤委員長〕 閉会を宣言した。

終了 15 : 15

以 上